

第 23 回地方公務員共済資金運用委員会議事要旨

1. 日 時：平成 31 年 2 月 25 日（月） 10:00～11:00
2. 場 所：地方公務員共済組合連合会 特別会議室
3. 出席した委員：
 - ・若杉座長 ・川北委員 ・喜多委員 ・佐藤委員 ・芹田委員
 - ・高山委員 ・竹原委員 ・徳島委員 ・長澤委員 ・蜂須賀委員
 - ・森本委員
4. 議 事
 - (1) 退職等年金給付積立金における基本ポートフォリオの見直しの検討について
 - (2) 平成 30 年度第 3 四半期各積立金の運用状況（地共済）
 - (3) 平成 30 年度第 3 四半期の各積立金のリスク管理状況（地共済）

〈議事の概要〉

- ・事務局から上記議題について資料の説明が行われた。
- ・その後、意見交換が行われた。

- (1) 退職等年金給付積立金における基本ポートフォリオの見直しの検討について

- 当時の検討経緯を申し上げますと、退職等年金給付積立金の基本ポートフォリオについては、10 年国債の応募者利回りがベースになっていることから、10 年国債を買っていれば、基本的には大丈夫と考えられた。積立金は資産蓄積過程にあり、しかも簿価主義を採用したことで、時価変動リスクはあまり意識しなくて済むという前提があった。

また、当時は、10 年債及び 20 年債の半分ずつで構成するラダーを組むと、イールドカーブが変化しても利息収入の上乗せに比して大きな損失は発生しないということを計算し、現在のポートフォリオを策定した。株式や為替のリスク、さらに信用リスクもとらないこととし、地方債メインのポートフォリオを組んだ。時価評価している他の積立金とは、リスクそのものが違うということを確認いただけたらと思う。

(3) 平成30年度第3四半期の各積立金のリスク管理状況（地共済）

- 今回のように相場が大きく変動したときには、どういうリスク管理をしたのか、もしくはどういう検証したのか、という説明が必要ではないかと思う。

- 今後のポートフォリオの検討にあたって、例えば一元化前のポートフォリオで運用していた場合と、現行のポートフォリオの結果と比較するなどして、検証を行い、安全性をPRしたらいいのではないか。

- 運用は長期で考えるということを目ごろから大前提としていると思うが、第3四半期のマイナスのようなことがあったときに、長期で見たらどうなのか示すことは一つの安心材料となる。

以上